

足利風 -ashikaga-fu

2022
8月号
Vol.81



画：中山キッコ

足利市民活動センター

開館時間：平日 10:00～19:00

休館日：土・日・祝日・第3月曜日

〒326-0052

栃木県足利市相生町1-1

足利市生涯学習センター3F

TEL 0284 (44) 7311

FAX 0284 (44) 7312

Mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

- * 特集！
「いのちの桃源から浄土へ」
- * TOPICS
「講座SDGs 盛況！」
- * 私のボランティアことはじめ
「おたがいさま」で支え合う
地域づくりを目指して
- * サークル紹介
「一般財団法人日本熊森協会」
- * INFORMATION

* 特集！ *

「いのち」の桃源から浄土へ」

「祈るべき 天とおもえど 天の病む」(石牟礼道子) “折々のうた”で選者の大岡信は、この句の背景には水俣の海と空が太古以来いかに平和で豊かな命を育んできたかに対する限りない愛惜がある、そしてこれは単に水俣だけの運命ではない・・・海が病む以上、天も病む。と書いている。

石牟礼道子も書いている・・・「田中正造翁がつとに警告した亡国の民は私たちである。足尾の鉍毒を呑み込んだ渡良瀬川はいかにその以前、豊沃な流域をつくり出して関東の野を潤していたことか。庭田源八翁が書き残した渡良瀬川の描写を読めば、風土というものが自ら発する気品が匂い立つようである。水俣についても同じことが言える」と。



以前、その病軀の石牟礼道子さんを、佐野市の一社会教育主事が小さな公民館にお呼びしてお話ししてもらったことがあった。驚いた私たちは足利や栃木から大挙して駆けつけた・・・その熱い想いを持った主事も今はいない。

その水俣の生き方のフロントから生まれた「環境社会学」が、現代の“SDG s”を学ぶ若者たちの熱い想いに火をつけている。生活の現場に生まれた野生の学問＝環境社会学の原点は、リップナック・スタンプスの共著「ネットワーキング」にある。人と人がゆるくつながることを意味する「ネットワーキング」は“いのちを守る”ところから出発する。～生まれた小さい“いのち”は大きくなるまで生きなければならない！ 生産主義を乗り越え包み込む共生。コンビビアル（交歓的）で利他的な公共性の在り方。私たちはGNPには変換できない、利他的で共生的なやりとり、つまり相互性によって生かされていることに目醒めなければならない・・・世話・相互扶助・看護・見届けること・愛そしてボランティア活動などだ。～それらを田中正造は“地獄の桃源”と呼び、石牟礼道子は“苦海浄土”と呼んだ。細胞のひとつ一つから地球に至るまで今すべての共生環境が“地獄の桃源”であり“苦海浄土”なのではないだろうか・・・

(M生)

* TOPICS *

「講座SDG s 盛況！」

4月21日夜の足利市民活動センターでの「SDG s 講座」は、画期的な面白い講座となりました。“サステナブル学”の話も新鮮で興味深いものでした。約50年前のローマクラブの提言「成長の限界」から、2015年の「SDG s」（持続可能な開発目標）に至るまでの経過、



「SDG s」の現在の課題や今後の展望、そして“子どもの貧困”“持続可能な農業”などの事例発表もあり、「SDG s」の真髓を堪能した講座となりました。次回以降も楽しみです。



* 私のボランティアことはじめ *

「おたがいさま」で支え合う地域づくりを目指して

社会福祉士 中西 聖

現在、私は社会福祉協議会で「地域福祉」に取り組んでいます。

かつて、地域や家庭、職場など様々な生活の場面において「おたがいさま」という助け合いや支え合いのしくみがありました。ご近所に不安や悩みを相談できる相手がいたり、暮らしの変化に気づき支える関係がありました。しかし、時代の流れと共に、私たちの日常を取り巻く環境は大きく変化し、価値観の多様化・核家族化・少子高齢化など、生活課題や地域福祉課題も大きく変化しました。その結果、地域のつながりはどんどん希薄化し、世代を問わず、地域での孤立が大きな社会問題となっています。問題解決のために、公的制度による支援の整備も進んでいますが、同時に地域全体で支える力の再構築も求められています。困っている人や生きづらさを抱える人たちの問題を「我がごと（自分ごと）」として受け止め、人と人、人と社会が、世代や分野を超えて「丸ごと」つながることのできる社会を目指して地域づくりを進めていくことが私たちの使命だと考えています。地域の皆さんと議論し、泣いたり笑ったり、様々な時間を共有しながらともに力を合わせて頑張りたいと思っています。



私が、福祉の仕事に就きたいと思ったのは小学四年の時に、二人の人の出会いからでした。一人は、当時の担任の先生で、大学で障がい児教育を学んだ人でした。道徳の時間に「障がい」についてたくさんのお話をいただきました。もう一人は、交流授業で出会った重い障がいのある女の子でした。今でも福祉に携わる仕事を続けられていること、本当にありがたく幸せに思います。

地域活動に人生を捧げた父と「福祉」についてよく議論を交わしました。当時の私は障がい福祉に携わっており、父が語る「地域福祉」はピンとこず、父と私の「福祉」は決して交わることはないだろうと思っていました。その私が今「地域福祉」に携わっていることに何か深い縁を感じています。

すべての人が世代や属性、背景を問わず、一人ひとりのかけがえのない人生を住み慣れた地域で暮らし続けていけるように「おたがいさま」で支え合える地域づくりを目指し力を尽くしていきたいと思っています。



* サークル紹介 *

「一般財団法人日本熊森協会」

森林生態系ピラミッドの頂点にいるクマをシンボルに奥山の保全と再生、大型野生動物の保護にボランティアで取り組んでいる全国 28 支部・会員数約 2 万人の実践自然保



護団体です。放置された人工林や過度なエネルギー開発（太陽光・風力発電）等による森林破壊を見直すべく活動しています。奥山の森が陸川海の全生物の命を守っていること、自然や動物と共存することの大切さを勉強会や実践活動等で学べるくまもり会員になりませんか。 栃木県支部長 富田和則

* INFORMATION *

※コロナ感染対策により内容が変更・中止になる場合があります。)

☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。

その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。

★令和4年 8月20日(土) 13:00～15:00

*本:「足利歴史散策」(松崎 洋二)

*案内人: 清水 弘一 さん

*ひとこと: 足利は日本の地方都市で一番長い歴史を持つ街です。足利には千年の歴史が詰め込まれ多数の史跡が積み重ねられています。足利の歴史や史跡には多くの謎が残されています。数えきれぬほど多い史跡と謎が足利の美しい自然の中に点在しています。足利の歴史観光には、このような手軽なガイドブックが必要です。まずこの本を片手に、ぶらりと足利を歩いてみませんか!

★令和4年 9月16日(金) 14:00～16:00

*本:「まちづくり大変記」(中島 条雄)

*案内人: 木村 寛 さん

*ひとこと: 足利商工会議所専務理事として、勇名を全国に轟かせた中島条雄さん。「小さい風のまちおこし・ういんどみる物語」に続く第2弾として、NHK大河ドラマ太平記をめぐる顛末を描いた本書は、全国的に話題を巻き起こした。ういんどみる舎・舎長の鈴木クンのオダテにのってと言いながら、その筆致の鋭さは天下一品である。稀代の花狂いと自称する中島さんの周りに乱舞する櫻吹雪を思い浮かべながら・・・ぜひ!

■参加費: 無料

■会場/問い合わせ: 足利市民活動センター ☎44-7311

☆企画展 (交流コーナー)

- | | |
|------------------------|-------------|
| * 8月 1日(月) ~ 8月10日(水) | 憧憬のふるさと展 |
| * 8月17日(水) ~ 8月25日(木) | ひょうたん置き物飾り展 |
| * 8月29日(月) ~ 9月 8日(木) | 私の好きなモノ展 |
| * 9月12日(月) ~ 9月22日(木) | 足利の職人技を伝える展 |
| * 9月26日(月) ~ 10月 6日(木) | 四季の山の写真展 |

※展示時間・・・10:00～19:00 ただし最終日は15:00まで
(9/20・10/1・10/2・10/3・土・日・祝日・第3月曜日は休館日)

☆相談室&講座

*相談室 = 毎月第2・第4水曜 14:00～16:00

*講座 = 毎月1回

※詳しくは、別紙参照

編集後記

チェルノブイリ原発事故の際、数多くの子ども達を、被ばく治療で定評のある信州大学でケアした僧侶がいた。数十回往復したが、時々松本への帰途、足利に寄ってくれた。お袋への土産はマトリョーシカ人形。その後、松本の住職は譲り、今は、エイズ患者のケアをしていたタイで骨を埋める覚悟の“開発(かいほつ)僧だ。若者・女性や村づくりの妨げとなるものを取り除き“自立の芽”を伸ばす僧だ。爽やかな笑顔が忘れられない。(カサブランカ)